

観点4 家庭・地域・園の三者の連携や協力
による幼児教育の推進と発信の工夫

保護者や地域と協働し 「遊び込む幼児」を育てる 園経営をめざして

札幌市立かっこう幼稚園
園長 笹山 雅司

I はじめに

本園は、札幌市の中心部から南東に約 6km の住宅街にあり、近隣にはカーリングスタジアムや消防署といった公共施設があり、園外保育に適する規模の公園が比較的多い地域に位置している。今年度で開園 47 年目を迎え、平成 7 年度から 3 年保育を開始、平成 23 年度からは「豊平区研究実践園」となり、地域の特色等を踏まえ、教育課題に応じた実践研究に取り組み、成果を区内の私立幼稚園・認定こども園・保育所等に提供することにより、幼児教育の重要性を発信するとともに、札幌市の幼児教育の質の向上を図っている。

II 主題設定の理由

昨年度から新型コロナウイルス感染症の対策として、保護者を始め、地域の方の入園の制限や行事等の短縮、見直しなどが継続的に行われている。年度当初は、感染症予防のために欠席する幼児や不安をもつ保護者もあり、園の対策や日常の遊びの中で気持ちを開放し、安心して遊ぶことで成長している様子を機会ある毎に知らせるようにしてきた。

幸い、本園は保護者による送迎となっており、登降園時に担任や園の職員と顔を合わせることができる。これまでもその機会を活用して遊びを通して育つ幼児の姿を伝えてきているが、その様子が一層伝わるよう幼児が日々遊ぶ中で体験し、学んでいることを意味付けし、理解していただけるよう発信を工夫していくことが求められている。また、コロナ以前は、地域の人や

近隣の小学校との連携を密にしながら、様々な形で交流連携することで、育ち合えるよう取り組んできていた。コロナ禍でも、子どもたちの興味関心を広げ、深めていくきっかけとして、地域の方と協働することができるよう工夫して取り組を進めている。

本園は下記のように、子どもを真ん中に、職員、保護者や地域の皆様と協働し、「遊び込む幼児」を育てることを指導の重点として園経営にあたっており、表題を研究主題として考察していきたい。

【園経営の重点・重点項目】

“遊び込む幼児”を育てる

～子どもを真ん中に、職員、保護者や地域が
協働し、未来につながる幼稚園～

〇わくわく 楽しい！	安心と信頼を土台に遊びを通した学びを深めよう
〇どンドンやっ てみよう！	かっこうらしさを生かし、心に響く豊かな体験を共有しよう
〇ぎゅっと 手を携えて！	職員、保護者、地域がつながって子どもの育ちを支えよう

III 研究にあたって

感染症対策として、保護者が園に入ることが難しい状況で、子どもたちが園で遊ぶ中での体験や学んでいることが、伝わり難くなっている。これまでは、子どもたちの遊ぶ様子を見ていただきお話しする保育参観・懇談、保育に参加し、実際に子どもたちの思いや考えを遊ぶ中で感じていただく機会を設けていた。

研究主題に迫るために、感染症対策をしながらも「遊び込む幼児」を育てるために保護者や地域とどのように協働していくことができるのかを以下の視点から考察してみたい。

【研究の視点】

- 1 家庭への啓発や発信がより有効な方法を探る。
- 2 保護者が保育や幼児の遊びや活動に触れる保育参観・参加の工夫で理解を深める過程を探る。
- 3 地域の方と豊かに関わることを通して、遊び込む経験につながるところを探る。

Ⅳ 実践事例

本園では、主に以下のような取組をしているが、研究の視点に沿って、より有効であると思われるところをエピソード事例として取り上げた。

1 家庭への啓発・発信の工夫

便り	園便り（園教育説明号を含む）	子どもたちの育ちとそこに込められた願い
	学級便り（月1回以上発行）	学級のねらいに沿った遊びや活動の様子を掲載
	保健便り 生活安全便り	養護教諭が健診や健康面での取組等を掲載
掲示	風除室にて掲示	遊びの様子など…①
	まほうのかわ	保護者の振り返り…②
	ホームページ	QRコードを入れる

① 保護者へ…育ちの流れが分かるように…

園での遊びの様子、遊びの中で体験していることや、その時期に大切にしていること等、写真を添えてドキュメンテーションを作成し、一週間を目処に玄関風除室に掲示。また、学期に一度、学級毎に遊び込む幼児の取組を意味づけしたドキュメンテーションを掲示

年中かぜ組「日本の伝統的な活動に触れて」 2021.12

黒大豆収穫 12/6 園屋上の「かっこうファーム」で種から育てて収穫した黒い枝豆を食べた経験から「真っ黒の豆が出てきたら当たりだ!」と黒大豆の殻をむきながら、一粒一粒の豆の違いを真剣に見ています。

きな粉作り 12/7 地域の月寒郷土資料館からお借りした石臼で、炒った大豆を挽いてきな粉にします。自分たちで種から育て、収穫し、殻剥きをした大豆が粉になっていくことに興味津々です。

餅つきごっこ 12/8 たらいと段ボールの手作り臼に餅に見立てた小麦粉粘土を入れ、牛乳パック等で作った杵でもちつきごっこ! 昨年の経験や絵本で読んだ知識を活かして、自分たちでつく人、こねる人に分かれタイミングを合わせながら餅つき会をイメージして遊びます。

餅つき会 12/9 重たい杵を持ち上げ、「よいしょ!」と一人ずつ順に餅をつきました。ついた餅は園長先生が丸めて鏡餅に。餅つき後は、お餅屋さんの餅にきな粉とみたらしをのせて食べます。「頑張って餅をついたから、おいしい!」「きな粉おいしい!」と、きな粉やお餅に親しみをもちて食べます。

お餅屋さんごっこ 12/10 前日に食べたお餅や、鏡餅のことを思い出して餅作りをしています。絵本で見た「のし餅」を作る子どもたち。

取組を通して… 普段なかなか経験できない「きな粉作り」や「餅つき」を通して、日本の伝統的な活動に親しんだ子どもたち。自分たちで育ててきた大豆の色やきな粉になること、思いをもって取り組んでいました。今後も伝統的な活動、季節に応じた活動などに直接感覚で触れる体験を大切に取り組んでいきたいと思います。

し、本園 HP にも掲載している。左下図は、日常の栽培活動で、枝豆が大豆になる様子、大豆を炒って石臼で挽くときなこになり、餅つきをして食べる経験が、日常の遊びの深まりへとつながる事例を掲示したものである。我が子の取組の様子や作品・描画等の掲示など、保護者と園長・教職員と子どもの育ちや表現していること等を確認し合うツールともなっている。

② 「ま・ほう・の・かい・わ」を用いた取組で…

札幌市教委作成の市立幼稚園・学校と家庭教育が連携して我が子のよさに気づき、認め励ますことで意欲を育てていく取組を活用。本園では、下図の「〇〇さんのきらきらエピソードカード」を作成し、行事や長期休業中に「ま・ほう・の・かい・わ」を元にお子さんと振り返って記入して提出いただき、園と共有し、さらに関わりが深まるようにしている。

記入例

かっこうさんのきらきらエピソードカード

夏休みの生活から

お子さんはどんなことに、興味・関心をもっていましたか?

例: キャンプでセミの抜け殻を見ました。でも、触るのは怖かったです!

一緒にやってみよう!

例: 庭に生えた枝豆を一緒に摘み取りました。

お子さんの姿から発見したことは?

例: 「手がグズグズしているね」など気付いたことを自分なりの言葉で教えてくれるようになった!

生活発表会の姿から

お子さんが楽しんでいたこと、チャレンジしていたことは?

例: 初めてのハンドベルへの挑戦を楽しんでいました。

お子さんが発見した、お子さんの成長や素敵な姿

例: お友達との動きを意図しながら取り組む姿に成長を感じました。

冬休みの生活から

お子さんはどんなことに、興味・関心をもっていましたか?

例: お餅に挑戦していました。

一緒にやってみよう!

例: 一緒にトースターでお餅を焼く、お餅が膨れ上がる様子を見ました。

お子さんの姿から発見したことは?

例: 不思議に思ったことをじっくり観察しようとする姿が新鮮でした。

まほうのかわ

毎日の「遊び」で楽しかったことを振り返り共有しましょう。

方法に気づくように、一緒に考えよう。

伸びる一緒に喜び、ほめよう。

改善する気持ち(意欲)をもてるように、生活を一緒に振り返りましょう。

わかったこと、できたことを認め、もっと挑戦できるようにしましょう。

そら組 名前 かっこう

2 保護者の参観・子どもと関わる機会の確保

※コロナ禍における保護者との連携の工夫(★印)

家庭訪問	4 月入園・進級 児の居住地確認	家庭の周辺環境等の確認…家庭環境等理解へ
個人懇談	学期末(2 回) 7 月・12 月	個別指導・支援計画懇談は、都度開催
参観懇談	学期毎(3 回) 分散開催★	担任の学級経営・園長の園経営の具体を説明
保育参加	ペンギンクラブ 毎回各学級 2～4 名、年 8 回★	園児一人につき 1 回保護者の参加で、我が子の育ちを知っていただく
	ライオンクラブ ③(年 2～3 回)	上記が難しい希望の保護者…父親を想定
行事参観	入園・修了式 運動会・誕生会 生活発表会④	感染症対策をして参観いただき、子どもの育ち

絵本貸出	かつこう文庫…自由貸出日…	子どもが選定 保護者と選定 家に持ち帰り、保護者の読み聞かせなど
飼育栽培	家から持ち込み 園から持ち帰り	クワガタ・バッタなど 栽培物など…⑤

③ 保護者による保育の参加を通して…10月以降

ペンギンクラブは、一家庭年1回は参加できるような希望をとり調整して実施し、ライオンクラブでは、父親らの希望者に我が子の遊びに添いながら一緒に遊ぶ中で興味関心の所在や、友達と関わる様子などから遊びの広がりや深まりを見ていただいている。いずれも参加後にそれらを振り返って園長と懇談している。

「保育参加ライオン…お父さんと一緒に遊んだよ」

年中12月 お父さんたちが保育に参加、子どもが考えていることに添って関わることで、遊びの中で興味や意欲をもっていることが見え、さらに遊びを作り出す様子や深まりが見られた。これが「遊び込む」ということかな？という感想が…

切り紙をしていたときに、変な形に切ってみるとどんな形になる？と切り、形と開いた後の関係性に興味がありそうでした。

積み木を何度か組み立て直すなど友達とよく考えて遊んでいて成長を感じました。

友達と一緒になら、ちょっと難しい立ち乗りにも挑戦しているんだ！

保護者の声 普段、子どもから園の様子や遊びの内容等を聞いておりましたが、実際に自分の目で見て参加してみると、遊びから遊びを生み出すような楽しい環境で成長しているなど感じました。

④ 生活発表会…学年を超えた育ちを伝える

我が子だけでなく、仲間や学級の子どもの育ちを共有しつつ、他学年への憧れから一緒に遊び、広がりや深まりが見られた様子を玄関掲示等で伝えた。

年長12月 太鼓の達人になりたい…発表会

ヨサコイの踊りの横で太鼓を叩くことが楽しくなり、太鼓の達人のように譜面を作り、そのうち太鼓も作って、発表会で披露することに…

太鼓の譜面ができたよ！

自分の太鼓作り

～緊張気味だが、自信をもって発表～

あこがれの年長さんの発表を真似て太鼓を叩いてみたよ！

風除室に掲示し見せよう

動きや表情がよく出ていますね！

⑤ かつこうファーム(栽培活動)の体験の共有…

本園の特色の3階屋上にある「かつこうファーム」年長児は、これまでの栽培の経験から、自分で植えてみたいものを選び、種や苗植えから育てた。大根、キュウリ、キャベツ…収穫後は、家庭に持ち帰り、親子で考えたメニューで食べた感想をいただいた。

年長7月 「かつこうファームで自分たちの野菜を育てたよ」

大きくな～れ！

これまでの経験から、育てたい野菜を育てて収穫し、家に持ち帰り、保護者と相談の上食べた様子をレポートしていただきました。

収穫はまだかな？

キャベツがぬけたよ！

持ち帰ってラーメンに入れてもらおうかな？

私たちがからしを収穫！

他時に大根、からし、ミニトマト等も植えています。

保護者の声 「キャベツでラーメン食べたい！」とのリクエストがあり、キャベツたっぷり入れたしょうゆラーメンにしました。野菜は言われないと食べない子でしたが、自分が育てたキャベツは、「おいしい！」ってたくさん食べました。

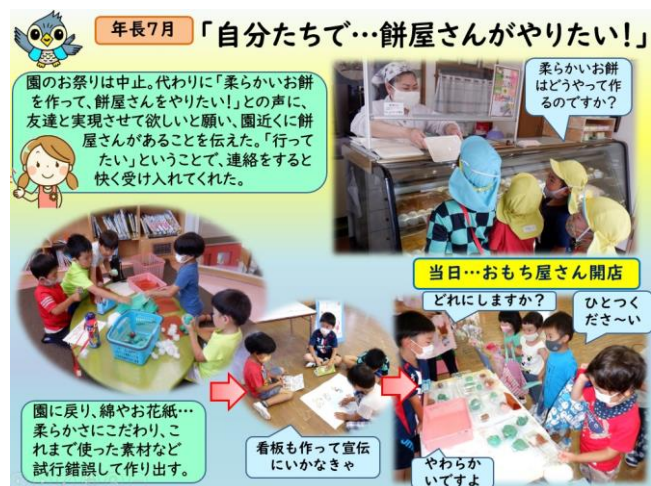
3 地域の方との豊かな関わり

多様な公園	遊具、広場、木の実・葉	戸外なのでコロナ禍でも有効活用★
公共施設等	消防署・図書館・お店、農業専門学校	少人数で訪問※ お餅屋さん…⑥
人材	絵本の読み聞かせ ピアノコンサート お花、お茶会	地域の方が日常的に来園し、行ってくれる。
月寒東小(園校区)	休み時間交流⑦★ 探検・給食体験 プール・グラウンド 教師同士の関わり 幼保小連携推進協議会の開催	子ども同士の継続的な交流、施設等の利用 スタカリ接続に向けた話合い、区内幼保小職員の研修
近隣宅	草花、虫など…⑧	飼育に生かして

⑥ 近隣の餅屋さんと連携し、豊かな取組へ

年長の育ちとして一学期末に大切にしたい活動として取り組んでいる「お祭りごっこ」。遊びの中でいろいろな品物を作って売り買いのごっこ遊びを楽しんでおり、投げかけると、男児らから「餅屋さんがやりたい」

という声が上がった。「やわらかい餅」にこだわっていたので、近隣に餅屋があることを知らせ、出かけることに…。園に戻ってからいろいろな素材を工夫して作り上げ、年少児に買ってもらって満足することができた。秋には、散歩で訪れた公園でドングリを拾いながら、「ドングリ祭りがしたい!」ということで、この時の経験を生かし、柔らかい餅にドングリジュースなども加え、品物を工夫したごっこ遊びを再現して楽しんだ。



⑦ 小学生との関わりなどの機会を生かして…

これまでも表にある子ども同士の交流、職員同士の研修・連携接続など行われて来ているが、感染症対策をしながらできるところから実施した。

6月校庭が開いている時間帯に年長児が遊具などで遊ばせていただいた際、中休み時間に小学生が校庭に出てきた時に、修了児を中心に虫捕りを一緒にするなど自然な関わりが見られた。学校見学や給食体験等の限られた機会を生かし、年長児は小学校を身近に感じ、安心して就学に向かえるよう地域小学校の協力を得、支えていただいている。



⑦ 近隣のお宅の協力をいただきながら…

園の隣家の庭でアゲハの幼虫が木についているのを教師が発見。子どもたちといただきに行き、サンショウの葉を食べる、さなぎになると動かない、羽化するなどの様子をじっくり観察した子どもたち。子どもと話し合って逃がすことになり、元気に飛び立つアゲハを見送った。育てる過程で命について触れる経験となった。



V まとめ

【成果】

○感染症の状況により、保護者や地域の方の入園や関わりが制限される状況があったが、その都度対策を検討し、子どもたちと関わっていただく場面を設けたり、遊ぶ様子やその意味付け等を丁寧に伝えたりすることで、保護者等の理解と協力を得て園経営の重点に向けた推進ができています。

【課題】

○以前に関わっていた方との関係が途切れていることもあり、状況が落ち着いてきたら、子どもたちの興味関心を広げながら、地域の専門家や安心して関わる方ができる方と積極的に関係作りをしていくことが求められる。

○感染症対策として行事の見直しや保護者等への発信の在り方を検討してきたことが、これまで当たり前にしてきた行事や保育の在り方を考え直す機会となった。年度後半になり、緊急事態宣言が解除されたことを受けて、保護者や園関係者に保育参観や参加など具体的場面で「遊び込む」幼児の姿や育ちを伝えることができつつある。これからも職員、保護者や地域との協働の中で、「遊び込む幼児」の育ちを求めてマネジメントを工夫していきたい。